第10回 「尿潜血について」

2015年9月

みなさんの中に健康診断で「尿潜血が陽性」と言われたことがある方がおられると思います。尿潜血反応は試験紙で行われ、厳密に言うと、血液に存在する赤血球中のヘモグロビンが尿中に存在するかどうかを調べています。

尿潜血が陽性になる原因には、非常に多くのものがあります。腎・尿路系の炎症、損傷、癌、また溶血性貧血などで赤血球が体内で大量に壊される疾患の場合、ヘモグロビンが尿中に排泄され陽性になりますし、激しい運動などで大量に筋肉から放出されるミオグロビンと呼ばれるヘモグロビンによく似た蛋白が尿中に存在しても、尿潜血検査は陽性になることがあります。特に女性では生理の影響で血液が尿に混入して陽性になることがあります。

健診で尿潜血が陽性の場合二次検査を受けるようにアドバイスされると思います。そこで泌尿器科が登場するわけですが、この二次検査で原因の特定ができるものは40％にすぎません。また治療を必要とする疾患はそのうちの40％弱であるという統計があります。原因がはっきりしないので、このまま様子をみましょうという結論になった方も少なくないでしょう。

それではなぜ尿の潜血を調べるのでしょうか？それは陽性者の中にごくわずかですが、放っておくと腎不全で透析をしなくてはならなくなる腎炎や、命に関わる尿路系の癌といった疾患が見つかるからです。尿潜血陽性でもほとんどの方は全く治療は要せず、結果的には「痛くない腹を探られた形」になりますが、一次健診とは多少でも疾患の可能性が疑われる人を見極めて、ふるいわけること、がその意義であると理解しておかなければなりません。

尿潜血が陽性となる病気の多くは、ほかにこれといった症状がみられないことが多く、したがって、健康診断などでたまたま見つかることが大半であることも事実です。以前から尿潜血を言われていたが、症状もないので放っておいて、気がついたら腎不全で透析に・・・ということもありますので、原因がわからない場合でも一度は二次検査を受け、チェックするようにし、お医者さんのアドバイスを受けるようにしましょう。二次検査の内容については施設によって多少異なりますが、血液検査、尿顕微鏡検査（尿沈渣検査）、尿細胞診、レントゲン造影検査、超音波検査、膀胱鏡検査などがあります。

健康診断の本来の意味を考え、必要とならば検査を受けるようにしたいものです。

（木村）